

しかし、こうして保之助の集めた資料や、残した記録は、現在、須賀川市立博物館に保存されています。

その中に、泥面についてのいろいろな資料があります。泥面とは、江戸時代の子供のあそび道具です。大きさや形は、五・六センチの長方形でいろいろな模様や人物などがかかれています。それで勝負しよぼうをすることもできました。現在の紙メげんざいンコ（須賀川では、パッタとも言います。）のようなものです。

明治の中頃（約百年前）からは、土で作ったものから、鉛なまりで作られたものに変わってきました。

保之助が、この泥面をとくにたくさん集めることができた理由を、次のように説明しています。「私は、三つの大きな運めぐに恵めぐまれた。一つには、私の住んでいた浅草には大勢おおぜいの子供がいたこと、二つには、そのころ東京の道路や下水道の整備がさかんに行われ、下町地区がほり返されたこと、三つ目には、学校の教え子こや、先生の仲間、人夫にんぶなどが協力をしてくれたことです。」